

# かさましこ

KASAMASHIKO



TAKE FREE / SPECIAL ISSUE



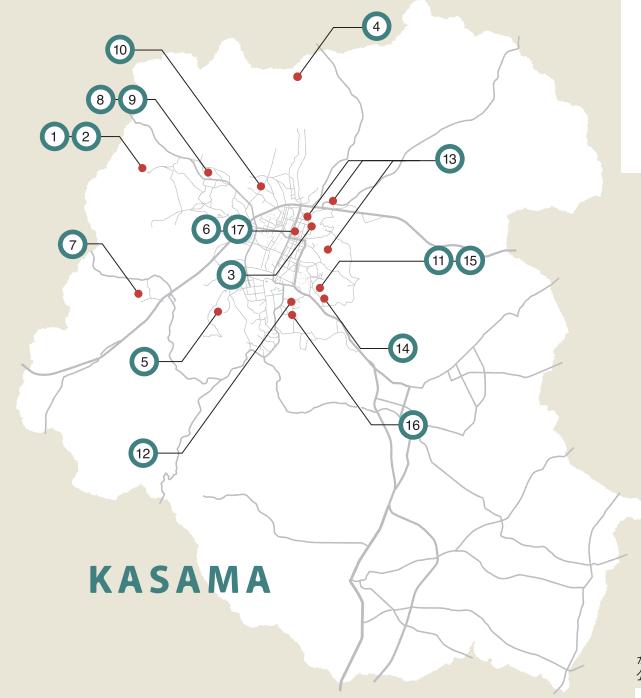
「焼き物語」

兄弟產地が紡ぐ

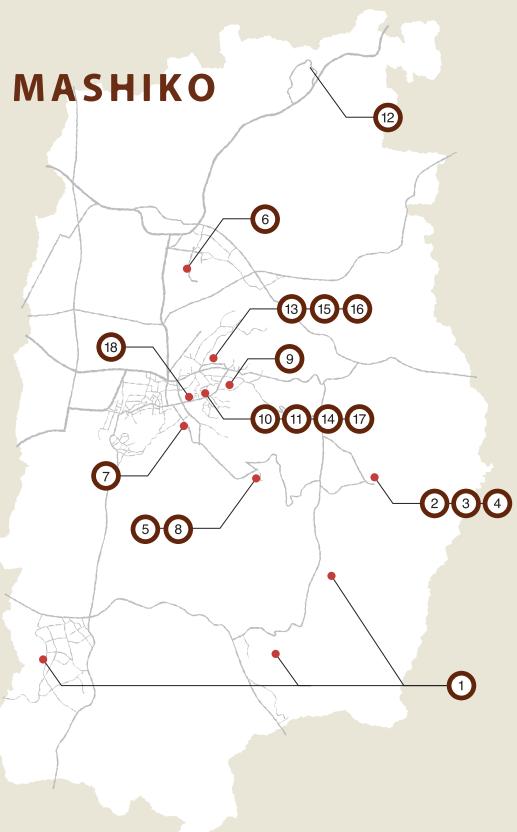
かさましこ

## 笠間市構成文化財 MAP

- ① 楞巖寺(山門、木造千手觀音立像)
- ② 笠間氏累代の墓地
- ③ 三所神社
- ④ 木造弥勒仏立像※1
- ⑤ 木造薬師如來立像※2
- ⑥ 唐本一切経※3
- ⑦ 稲田神社
- ⑧ 久野陶園
- ⑨ 笠間焼発祥に係わる登窯
- ⑩ 凰台院山門
- ⑪ 海鼠釉流掛茶壺(笠間焼初期作品)※4
- ⑫ 黒釉捏鉢(笠間焼初期作品)※5
- ⑬ 笠間城跡(笠間城櫓・城門)
- ⑭ 茨城県立笠間陶芸大学校(旧茨城県窯業指導所)
- ⑮ 松井康成作品※6
- ⑯ 春風萬里莊
- ⑰ 笠間稻荷神社本殿



\*1 ② 弥勒教会 収藏 \*2 ⑤ 岩谷寺 収藏 \*3 ⑩ 笠間稻荷神社 収藏  
\*4 ⑪ 茨城県陶芸美術館 収藏 \*5 ⑫ 製陶ふくら 収藏 \*6 ⑯ 茨城県陶芸美術館 収藏



\*1 ① ⑩ ⑪ 益子陶芸美術館/陶芸メッセ・益子 収藏 \*2 ⑯ 濱田庄司記念益子参考館 収藏

## 益子町構成文化財 MAP

- ① 益子古窯跡群(西山・本沼窯跡群、原・境窯跡群、栗生窯跡群)
- ② 地蔵院本堂
- ③ 宇都宮家の墓所
- ④ 綱神社(摂社大倉神社含む)
- ⑤ 西明寺(三重塔、楼門、本堂内厨子)
- ⑥ 円通寺表門
- ⑦ 根古屋窯(旧益子陶器伝習所)
- ⑧ 陶祖顕彰碑
- ⑨ 岩下製陶(太平窯)登窯
- ⑩ 山水土瓶※1
- ⑪ 汽車土瓶※1
- ⑫ 芦沼石採掘場と益子の柿釉
- ⑬ 濱田庄司作品※2
- ⑭ 島岡達三作品※1
- ⑮ 益子参考館上台・細工場
- ⑯ 益子参考館登り窯
- ⑰ 旧濱田庄司邸母屋
- ⑲ 日下田藍染工房





## ( 日本遺産とは？ )

日本には、地域固有の歴史・風土に根ざして受け継がれてきた様々な伝統、風習・文化などがあります。そして、このような地域の歴史的魅力や特色は、有形・無形の文化財として今に受け継がれています。これらの文化財によって形成された、日本の文化や伝統を物語る“ストーリー”を国が認定したものが「日本遺産」です。



かさましこ

「かさましこ」の美意識

# 兄弟産地が 紡ぐ 焼き物語

時代は下り中世になると、「かさましこ」の地は宇都宮氏が治めていました。宇都宮氏は武士としてだけではなく、京都の貴族ともつながりを持っています。歌壇が作られるなど、この地の宗教や文化を豊かにしました。

この頃、京都・鎌倉からもたらされた文化や芸術が、その後の笠間焼や益子焼の美意識にも影響を与えています。

北関東地方にある焼き物産地、笠間市と益子町。この2つの地域から生まれたのが「かさましこ」です。山を挟んで近接するこの地域は、古代から須恵器を作るために必要な粘土・水・燃料の木材に恵まれていました。8世紀から10世紀頃の古い窯跡からの出土品にも共通した特徴があり、同じ技術を有していたことがうかがえます。

# かさましこ 兄弟産地が紡ぐ焼き物語



[茨城県立笠間陶芸大学校(旧茨城県窯業指導所)] 茨城県内窯業界の生産性向上のため昭和25年に設立された茨城県窯業指導所を改称し、現代陶芸をリードする陶芸家を育てる教育研究機関として一新しました。

5



[汽車土瓶(益子焼初期作品)] 益子焼が東日本に広まったことを示す代表的な焼き物です。東日本を中心に駅弁と共に販売され、お茶を入れた土瓶駅名と販売店名が記されています。不良品の捨場から、大正時代半ば頃の汽車土瓶が多量に出土しています。



[根古屋窯(旧益子陶器伝習所)] 根古屋窯は大塚啓三郎が開業した窯元です。明治36年(1903)に益子陶器業組合の設立と同時に陶器職人を養成する益子陶器伝習所が開設され、組長の大塚忠治の窯場を借り受け、彼を所長として製陶技術の教育が行われました。 栃木県益子町益子 864 見学料金 | 無料(要予約 0285-72-2248) 営業時間 | 10:00 ~ 15:00



[黒釉捏鉢(笠間焼初期作品)] 黒釉捏鉢は内側に流掛が見られる捏鉢です。江戸時代の職人のものづくりへの高い意欲を感じられ、製陶ふくだに所蔵されています。製陶ふくだは約230年前、信楽から来た園部善六の窯を寛政8年(1796)に義右門が買い受け以来続く窯元です。

## かさましこ の誕生

prologue

かさましこ 兄弟産地が紡ぐ焼き物語に訪れる作風の変化 「かさましこ」陶芸に

明治になると笠間と益子それぞれで焼き物の組合が設立され、連携して支え合いながら関東の焼き物作りの地として発展しました。明治から大正にかけて製造された日用品は丈夫で使いやすく、値段も安かつたため、東京を中心にして全国に流通しました。

18世紀後半に笠間藩の久野半右衛門が焼き物を始めます。これが後の笠間焼です。さらに、19世紀後半に大塚啓三郎が久野窯で焼き物作りと出会い、益子で築いた窯が益子焼の始まりです。8世紀に同じ技術を有していた「かさましこ」が千年の時を経て再び同じ陶器作りの道を歩み始めたのです。

16世紀後半に宇都宮氏が豊臣秀吉によって改易されると、「かさましこ」はそれまでの歴史を歩むことになります。

### 兄・笠間焼と弟・益子焼の誕生

ましこの窯元は生活の危機を何度も迎えます。このように、笠間と益子の焼き物にそれぞれ作風の変化が起ります。

ましこでは新たな変化は益子で起こります。昭和初期に素朴な日常道具に

はじめに新たな変化は益子で起こります。昭和初期に素朴な日常道具に

美を見出す民藝運動が拡がりました。

益子では次第に、濱田庄司を中心とし

て芸術の要素が加わった民芸品の陶器

が作られるようになりました。その

後、民藝運動は窯業だけにとどまら

ず、染色、木工、金工などの職人たち

にも伝わっていきました。職人たちの

素朴で健全な心と伝統に裏付けられた

確かな技術から、時代に合わせた新し

い作品がたくさん生まれてきました。

### 陶文化を創造、進化する「かさましこ」

「かさましこ」では、日常の中に感性が作られるようになりました。その後、民藝運動は窯業だけにとどまらず、染色、木工、金工などの職人たちにも伝わっていきました。職人たちの素朴で健全な心と伝統に裏付けられた確かな技術から、時代に合わせた新しい作品がたくさん生まれてきました。

一方、笠間では戦後に窯業地存続の危機に陥ると、茨城県が窯業指導所を設立しました。ここでは、よりデザイン性を重視した陶器の制作を目指して、釉薬の改良や粘土の研究に加え、デザイナーなどによる指導が行われました。さらに、茨城県内外から才能ある陶芸家を招くために、行政と民間が協力して窯業団地や笠間芸術の村を作られ、地元の人々の支援も生まれました。こうして斬新な表現や技法が誕生し、松井康成の開発した「練上」技法は笠間焼を芸術の域まで高めました。

こうして、兄弟焼き物の笠間焼・益子焼はつながり合い、暮らしに寄り添う独自の陶文化を育んでいます。

ところが、順調な焼き物の経営は長くは続きませんでした。様々な産業の発展と生活様式の変化により、「かさ

かさましこ  
兄弟産地が紡ぐ「焼き物語」

笠間

日本遺産構成文化財紹介



【笠間城跡(笠間城櫓・城門)】承久元年(1219)に笠間時朝が築いたといわれる山城です。笠間氏は、天正18年(1590)の豊臣秀吉による「小田原征伐」に出兵しなかったため、宇都宮氏に滅ぼされました。櫓は県の有形文化財、城門は市の有形文化財にそれぞれ指定されています。



【笠間稻荷神社本殿】自雑年間(650~661)創建とされる神社で、殖産興業の神として篤く信仰されてきました。本殿の前面に拝殿がつく平面形式で、外觀は非常に変化に富んだ意匠であり、繊細で華麗な彫刻が特徴的です。建物、彫刻は総檜の素木による権現造りで、江戸時代末期の特徴をよくあらわしていると言われています。

## 陶芸に新風を吹き込んだ兄、笠間

信楽の陶工の指導に端を発すると伝わる笠間焼。戦後はデザイン性を重視し、革新的な表現を追い求めました。笠間焼発祥の地である久野陶園をはじめ、笠間焼を育んできた歴史の息吹を感じさせます。

【木造薬師如来立像】木造薬師如来立像は建長5年(1253)の制作とされ、木造漆箔玉眼入りで舟形光背をもちます。背面下方に刻銘があり、笠間時朝の発願により制作されたものであることが分かっており、国の重要文化財に指定されています。



【木造弥勒仏立像】木造弥勒仏立像は宝治元年(1247)に制作されました。作者は不明ですが運慶の流れをくむ者とされています。中国の宋朝様式と慶派様式が確立された時代の典型を示しており、笠間時朝発願の作品です。国の重要文化財に指定されています。



【楞厳寺(山門、木造千手観音立像)】楞嚴寺は笠間氏の菩提寺で、寺内には時朝の銘が刻まれた木造千手観音立像が納められています。室町時代の応安7年(1374)、元(中国)で臨済禪を学び帰国した大拙祖能が建立した優れた山門です。木造千手観音立像と山門はそれぞれ国の重要文化財に指定されています。

笠間

日本遺産  
構成文化財  
紹介

# かさましこ 兄弟産地が紡ぐ 焼き物語

笠間

日本遺産構成文化財紹介



1 | [春風萬里荘] 春風萬里荘は笠間日動美術館の分館で、笠間芸術の村を代表する施設です。北大路魯山人が住んでいた家を昭和40年に北鎌倉から移築したものです。建物は茅葺き入母屋造りの重厚な構えの江戸時代中期の民家で、北大路魯山人が住んでいたままに残されています。 茨城県笠間市下市毛 芸術の村 開館時間 | 9:30～17:00 休館日 | 月曜日 料金 | 600円(一般)

2 | [鳳台院山門] 凤台院は大塚啓三郎が寺子屋教育を受けた寺院で、笠翁円符和尚によって開かれた曹洞宗の寺院です。山門は総檜材の四脚門で、天井には天女が描かれ、屋根は茅葺き切妻造りでしたが修繕を行い、銅製瓦葺きとなっています。柱や頭貫までの浮彫りは大変見事で、市の有形文化財に指定されています。 茨城県笠間市箱田 2458 料金 | 無料

3 | [三所神社] 三所神社は建長2年(1250)笠間時朝により創建され、笠間城の鎮守を目的とした笠間の総鎮守社です。笠間城は鎌倉時代に笠間時朝が築いてから約750年間、歴代の笠間領主の居城となっていました。現在は壇や石垣が残されています。 茨城県笠間市笠間 353 料金 | 無料

4 | [稲田神社] 律令制以前に常陸国の西部を治めたとされる新治国造が建立した神社といわれ、奇稻田姫之命が祀られています。鎌倉時代中期、笠間時朝は息子の笠間朝景とともに藤原光俊や宇都宮泰綱ら歌人を招いて奉納歌会を催しました。 茨城県笠間市稲田 763 料金 | 無料



[海鼠釉流掛茶壺(笠間焼初期作品)]  
藁灰釉のうち、青味を帯びた白濁釉を海鼠釉といいます。藁灰釉とは稲藁を焼いた灰を主原料とする釉薬で、珪酸分が多く含むため、焼くと白濁します。海鼠釉流掛茶壺は江戸末期の作品で、茨城県陶芸美術館に所蔵されています。

[松井康成作品] 松井康成は重要無形文化財「練上手」保持者に認定されました。練上とは複数の異なる土を重ねたり練り込んだりして、様々な文様を表す技法です。松井は創造性豊かな陶芸の在り方を示して、後進の作家に大きな影響を与えています。



[笠間焼発祥に係わる登窯] 安永年間(1772～1781)に久野半右衛門が近江国から来た長右衛門の助言と指導を受けて築いた登り窯です。現在の登り窯は、江戸時代の基盤の上に明治初期のころ構築されたものと考えられています。市の有形文化財に指定されています。



笠間

日本遺産  
構成文化財  
紹介

# かさましこ 兄弟産地が紡ぐ『焼き物語』

益子

日本遺産構成文化財紹介



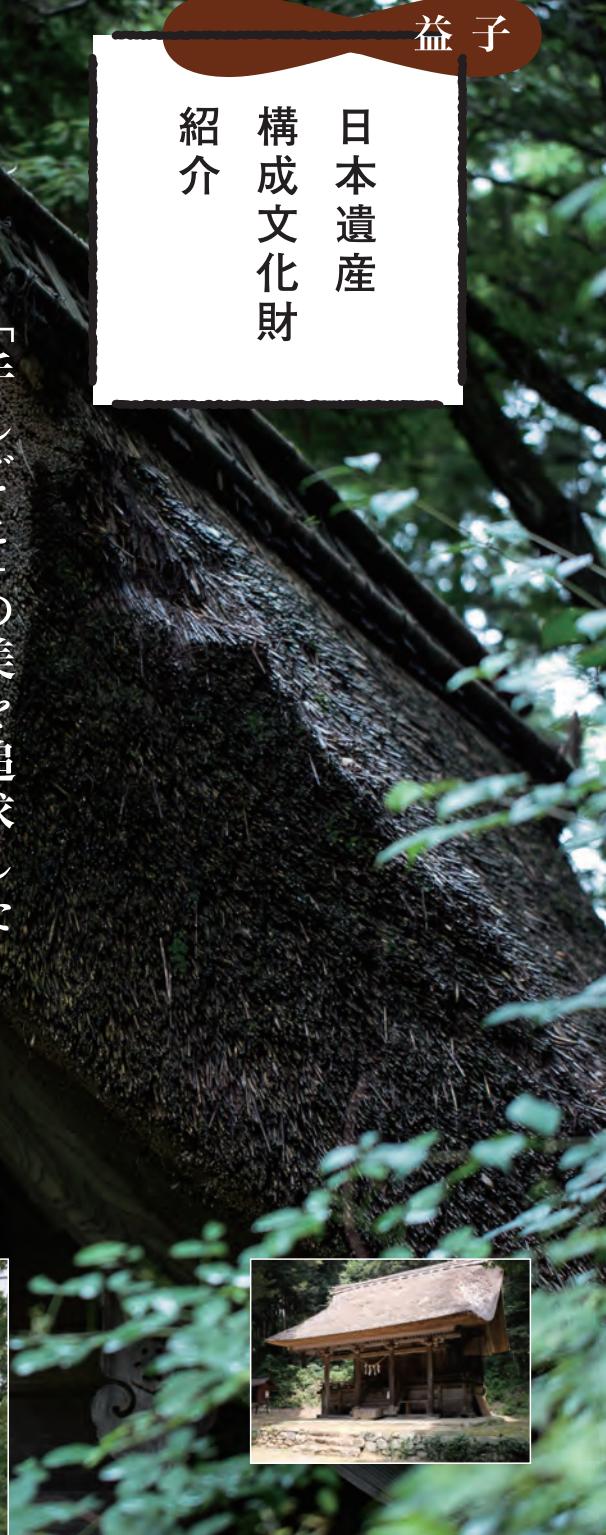
[地蔵院本堂] 永正年間に宇都宮家の3代目、宇都宮朝綱が菩提寺である尾羽寺の阿弥陀堂として建立しました。本堂は柿葺き型銅板葺きで、木造阿弥陀三尊像や絹本着色両界曼荼羅図などが納められ、国の重要文化財にも指定されています。 料金 | 無料

11



[円通寺表門] 円通寺は応永9年(1402)に創建された浄土宗旧名越派の総本山です。天文10年(1541)に表門のみを残して火災で焼失してしまいますが、益子氏により永禄2(1559)年に、現在の場所にお堂を建立し、表門も移築されました。国の重要文化財に指定されています。

10



益子

## 日本遺産 構成文化財 紹介

[西明寺(三重塔、楼門、本堂内厨子)]  
西明寺は天平9年(737)の創建と伝えられ、十一面觀音を本尊とする由緒ある寺です。境内には宇都宮氏の家臣である益子氏が建立した三重塔、楼門、本堂内厨子があり、これらは国の重要文化財に指定されています。  
営業時間 | 9:00～16:00 休業日 | 無休  
料金 | 無料(本堂内陣のみ拝観料300円)

[網神社(摂社大倉神社合む)] 網神社は建久5年(1194)に宇都宮家の菩提寺である尾羽寺の土地に建立されました。土佐にある一の宮・賀茂神社を勧請したのが始まりとされ、大永年間に再建されています。摂社の大倉神社本殿とともに国の重要文化財に指定されています。

日本遺産  
構成文化財  
紹介

かさましこ  
兄弟産地が紡ぐ焼き物語

//

益子

日本遺産構成文化財紹介



**1 | [濱田庄司作品]** 濱田庄司が得意とした流掛や赤絵、塩釉などの技法や、「黍文」と呼ばれる独自の文様を施した作品は、どれも力強くダイナミックです。濱田庄司記念益子参考館に所蔵されている5つの作品は町の有形文化財に指定されています。

**2 | [山水土瓶(益子焼初期作品)]** 江戸末期から昭和初期頃の益子焼です。絵師の皆川マスの作品は柳宗悦や濱田庄司らに絶賛され、ベルリンで昭和13年(1938)に開かれた第1回国際手工芸博覧会特選ピッチャー賞を受賞し、昭和35年(1960)には栃木県文化功労者に選ばれています。

**3 | [岩下製陶(太平窯)登窯]** 民藝運動が拡がる以前の明治末期～大正初期創業の窯元の登り窯です。登り窯は関東以北で最大であり、益子最古の登り窯として現在は町の有形文化財として古い窯道具と一緒に保存されています。

栃木県芳賀郡益子町益子3070 営業時間 | 10:00～18:00 定休日 | 不定休

**4 | [旧濱田庄司邸母屋]** 陶芸家の濱田庄司がすこやかな生活をおくるために農家の母屋を移築した母屋兼作業場の建物です。平成元年に町の有形文化財となり、同年に益子焼の伝統を伝えるために陶芸メッセ益子内に移築・保存されました。

栃木県芳賀郡益子町益子3388 営業時間 | 9:30～17:00 休館日 | 月曜日(祝日の場合、翌日休館) 入館料 | 800円(一般)



**[日下田藍染工房(日下田邸(染色工房併用)・藍染め窯場・草木染)]** 江戸時代から続く染物屋です。日下田藍染工房では民藝運動に共感し、民藝調の藍染めをはじめとする天然染料を用いた染色(草木染)の作品を現在も作り続けています。日下田邸と藍染め窯場は県の有形文化財にも指定されています。

**5 | [島岡達三作品]** 島岡達三は独特的な技法である「繩文象嵌」を中心に行っていました。平成8年(1996)には国指定重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定され、益子町が所有する5つの作品は町の有形文化財に指定されています。

かさましこの旅の途中で、おすすめの体験施設やお店があります。その一部を御案内しています。詳しくは「かさましこ」の公式ホームページをご覧ください。



日本遺産構成文化財だけじゃない  
かさましこで「見る」「買う」「食べる」

## 見る・体験 | LOOK



陶芸体験

熟練の職人の指導のもと、手びねりやロクロなど、様々な陶芸体験ができます。自分だけの作品づくりに挑戦してみませんか？



益子の大規模花畠

春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモス。リピーターも多く、他には類を見ない規模の花畠は一見の価値あり！



いちご狩り

町内にはいちご狩りを体験できる農園が多くあります。摘みたてのいちごは新鮮で甘く、普段とは一味違う美味しさです。



笠間日動美術館

茨城県笠間市笠間978-4  
開館時間 | 9:30～17:00  
休館日 | 月曜日（祝日の場合、翌日休館）



笠間工芸の丘

茨城県笠間市笠間2388-1  
開館時間 | 10:00～17:00  
休館日 | 月曜日（祝日の場合、翌日休館）



茨城県陶芸美術館

茨城県笠間市笠間2345  
開館時間 | 9:30～17:00  
休館日 | 月曜日（祝日の場合、翌日休館）

## 買う | BUY



益子焼

民藝から現代的なものまで、多種多様な作風作品が揃う益子焼。あなたのお気に入りの一品を探してみては？



益子のパン

実はこだわりのパン屋さんも多い益子。それぞれのお店ごとに特徴があり、一度食べればリピート間違いなし。



外池酒造

栃木県芳賀郡益子町大字塙333-1  
営業時間 | 9:00～17:00  
定休日 | 年中無休 見学 | 無料（予約制）



きらら館

茨城県笠間市笠間2258-1  
営業時間 | 10:00～17:00  
定休日 | 年中無休 個展あり



回廊ギャラリー門

茨城県笠間市笠間2230-1  
営業時間 | 10:00～18:00  
定休日なし 個展あり



笠間焼窯元共販センター

茨城県笠間市下市毛861-3  
営業時間 | 9:00～17:00  
定休日 | 水曜日

## 食べる・お土産 | EAT



道の駅ましこ

栃木県芳賀郡益子町長堤2271  
営業時間 | 9:00～18:00  
定休日 | 第2火曜日 通販サイトあり



益子のカフェ

地元の食材を活かした料理や益子焼の器で料理を楽しめる個性豊かでステキなカフェが多いのも益子の特徴です。



益子の蕎麦

益子には、地元で栽培された地粉を使った手打ち蕎麦屋がたくさんあります。自分好みのお店を見つけませんか？



佐白山のとうふ屋

茨城県笠間市笠間2810  
営業時間 | 10:00～17:00  
定休日 | 月曜日、第2火曜（祝日の場合、翌日定休）



そば切り一兵衛

茨城県笠間市笠間2490-10  
営業時間 | 11:30～18:00（売切れ次第、終了）  
定休日 | 月曜日（祝日の場合、翌日定休）



森のレストラン Monomi

茨城県笠間市笠間2517-1  
営業時間 | 11:30～14:00、17:30～20:30  
定休日 | 月曜日（祝日の場合、翌日定休）